



特別支援学級にはいろいろな子どもがいます

体が不自由な子、目の見えない子、耳の聞こえない子、理解に時間が必要な子、病弱な子。こうした障がいには、程度のちがいがあります。体が不自由といっても、ベッドから起き上がれない子、車いすなら移動できる子、義足や義手を使う子、不自由には見えないけれどもうまく体をコントロールできない子など…。

検査の結果や医師の診断によっては特別支援学級や特別支援学校を選ぶことができ、お子さんに応じた支援によって困り感をへらし、生活をしやすくします。島中学校には、理解に時間が必要な知的障がいの子のための「いきいき学級」、気持ちのコントロールやコミュニケーションが苦手な自閉・情緒障がいの子のための「かがやき学級」、週に1～2回かよう通級指導「はぐくみ」があります。私は、いきいき学級の担任です。

いきいき学級には、たし算、ひき算、かけ算、わり算を学習する子、分数や小数、中には因数分解や二次関数を学習する子がいます。時計の読み方など時間や時刻にかかわること、おつりの計算や〇割引などお金にかかわることを学習する子もいます。また、こうして学習したことを生かせるようにする生活単元という授業もあります。例えば、野菜を育てるために種をまき、手入れをして収穫します。収穫した野菜を袋につめ、注文をとって販売したり、調理実習に使ったりします。以前は「いきいき喫茶」という店をひらき、校区の小学生と交流することもありました。また、美術や作業の時間では、学校の玄関に設置するウェルカムボード、放送室のインタビューボードを飾る木工作品や新聞紙を使ったはり絵などを作りました。こうした学習は特性に応じて役割分担し、その子にあわせた支援を行います。理解に時間が必要な場合は、ゆったり時間をとります。つまずきが以前の学習にあれば、小学校の内容までさかのぼって学習します。タブレットで調べたり、動画を見たりもします。言葉だけでなく、時計やお金など具体物を使うことがあります。体格や器用さに応じた道具をそろえます。みなさんでいえば、視力が弱ければめがねをかける、高いところの物を取るため台に乗るといった感じです。

視力が弱いとか背が低いのは障がいとは言われませんが、支援する道具や物があれば生活にも困ることがへり、過ごしやすくなることは障がいも同じです。特別支援の学級にいる子や障がいをもつ人でも、支援する道具や物、何より支援する人がいてくださればその人らしく生活できます。特別支援学級の子もたちと接する中で、地域社会で生きていく子どもたちや身近にいる困り感のある人たちも、同じ地域で暮らすみなさんの支えがあれば、必ずやすごしやすい社会になり、障がいを克服できると思えるようになりました。そんな島中校区になることを願い、子どもたちを温かく支え、見守ってくださいますようお願いいたします。

※読み間違いの少ないUDフォントを使用

特別支援教育コーディネーター 金森 茂樹

○ ボランティア活動を通して培う互いに思い合う心

1月1日に発生した令和6年能登半島地震は、多くの方の生活を一変させ、厳しく不便な生活を強いられている方々がまだまだたくさんみえます。各自治体や企業が支援に当たっているというニュースを聞きますが、本校でも生徒が義援金や支援物資等で支援をしていることや保護者の方と現地でボランティア活動に参加したという話を聞いています。

今年度、島中学校では地域の方々のご協力で、たくさんのボランティア活動をご紹介いただき、多くの生徒が参加し、困っている方の力になることや人のために働くことの意義や喜びを感じることができました。こうした経験が、日常生活での仲間への思いやりの言動や今回の震災の支援にも繋がっているのかもしれない。

先日行われた新入生説明会での会場設営ボランティアでも、30人程の生徒が椅子や机をテキパキと並べたり、備品を運んだりしました。また1月20日に行われた木田小学校お楽しみ会ボランティアでは、大人の人と一緒にイベントの運営に携わって、小学生を楽しませていました。

今年度内、地域の方々からお知らせをいただいているボランティア活動はありませんが、来年度もぜひたくさんのボランティア活動をご紹介ください。



○ 得意なことを伸ばすイングリッシュクラブの実施

英語に興味のある生徒が、さらに英語を話す機会に触れられるように、新しい取組として「イングリッシュクラブ」を放課後に開催しています。1月17日は、3回目となるイングリッシュクラブを開催しました。今回は10名の参加者が英語の歌を聞きながら穴埋めをする活動や英単語が書かれたカードを使った活動を行いました。分からない英語があるとお互いに聞き合ったり、理解できたときには「やったー！」と喜んだりしながら、終始笑顔で活動できています。「英語はちょっと苦手。」「話すのが恥ずかしい。」という生徒もいますが、参加した後は「楽しかった。また参加したい。」と話していました。

ゲームを通して楽しく英語に触れる機会をと願い始めたイングリッシュクラブ。今後も不定期ですが続けていきたいと考えています。



○ 生徒会が伝えたいあいさつウィークの意義

生徒会が日常活動として取り組んでいる挨拶活動。本校では、「笑顔」「大きな声」「自分から」の3ポイントの挨拶を奨励しています。今回は挨拶の強化週間として、生徒会役員以外の生徒が、挨拶運動に参加できるように放送やポスターで呼びかけ、1週間の取組を行いました。より多くの人に参加してもらえるように、参加者を名簿に記していったところ、1日の参加者が平均70人にも達しました。

生活委員長は、「3ポイントを意識した挨拶で、みんなに気持ちの良い朝のスタートを切ってほしい。そして楽しく学校生活を送ってほしい。」と話しています。

2月には、生徒会主催でいじめ防止を目的とした「ピンクシャツデー」を行う予定です。

